

山下裕司

11月23日、松山市の愛媛県県民文化会館には各地域のコンクールを勝ち抜いた精鋭10団体と、前年1位のシード団体「Man de rart」が集結。ロビーで待っていると運良く移動中のグリーンメンと遭遇、「頑張れ！」のエールを送る。1階客席のほぼ中央にOB仲間と陣取り、全国大会独特の緊張感と共に開演を待つ。そして開会式のあと10時25分から、いよいよ本選が始まった。当然とは言え最初の団体からハイレベルの演奏が続く。サマーコンサートでジョイントした事もある「北海道大学合唱団」も素晴らしいステージだ。私たちの夢「同志社グリークラブ」は5番目の出演、近づくとつれ緊張が高まる中、その時を迎える。ステージには約50人のきれいなオーダー。課題曲は南弘明作曲の「秋の歌」、男声合唱曲集「月下の一群」の終曲だ。抑え気味の入りからしっとり歌いだし中盤も安定している。最後『あなたこなた 吹きまくれ』、私にはやや迫力不足に聴こえたが、おそらく2階の審査員席にピントを当てる作戦か、問題は無いだろう。水戸先生のピアノもさすが、見事の一音です。自由曲はア・カペラでトルミス「古代の海の歌」。今年6月の四連でも歌っている曲だが、やはりコンクールは一発勝負なので油断禁物。この辺りから聴衆ということのを忘れてステージと同化しだすOB連中。息を詰めて聴き入っているのがよくわかる。演奏は歌いだしから安定感たっぷり、難しいソロも大軒君が歌い切った。長い曲だったがあっという間に終わった感じ、素晴らしい出来だったと思います。

続いての出演は「Man de rart」、昨年のシードだがグリーンとは甲乙つけがたい感触。その後休憩を挟んで後半は金沢大学や地元愛媛大学、早稲田のコールフリーゲルに都留文科大学と続く。それぞれ立派な演奏でした。特に最後の「都留文科大学合唱団」はここ数年関西学院と並ぶ金賞常連校で、男声が少なくバランスが悪かったのはさておき、その演奏は圧巻の一音でした。

夕方遅くに結果発表、出演順に読み上げられる。5番目に呼ばれた『同志社グリークラブ、ゴールド、金賞』のアナウンスに感動。注目の順位は3位で、日本放送協会賞受賞。今年から2団体に贈られるシード権は、1位都留、2位早稲田フリーゲルに。早稲田は17人という少人数で勝ち上がってきただけあって丁寧な演奏だったが、正直、同志社との差は無かった様に思う。残念ながらグリーンは来年もまた関西コンクールからスタートになった。

しかし今回、コンクール再挑戦から十数年、関西で関学を破り全国で金賞受賞。今まではね返され続けた壁を乗り越えた。創立120周年という記念の年にグリーンが成し遂げた快挙に、盛大な拍手と「ブラボー」を贈りたい。